若手僧侶に関する動向調査 意識調査アンケートの結果報告(安居経験者)

曹洞宗宗務庁 人事部運営企画室

◆調査の目的

運営企画室では、「若手僧侶に関する動向調査」(2023 年 12 月曹洞禅ネットなどに掲載)を実施し、得度や若手僧侶数の減少、その速度が国の人口減少を上回るほど深刻であることを報告した。これに関連して、本調査は宗門の若手僧侶に対してアンケート形式の意識調査を実施したものである。10 代から 30 代の若手僧侶及び僧侶を目指そうとしている方が、寺院や僧侶に対して、今どのような考え方をしているのか意識調査を行い、曹洞宗宗務庁における業務の基礎資料として活用することを目的としている。

◆調査の概要

10代から30代の若手僧侶及び僧侶を目指そうとしている方を、安居経験者、安居中の掛搭僧、安居未経験者の3グループに分け、それぞれに応じた調査を実施する予定としている。本稿では、この内の安居経験者に対する意識調査アンケートの結果を報告する。

◆調査の方法

一部標本から全体を推定するサンプル調査とした。宗務所役職員や全国曹洞宗青年会の会員などを中心とした10代から30代の僧侶に、ウェブ形式で無記名のアンケートを実施した。

調査期間は 2023 年 12 月 22 日 (金) ~2024 年 1 月 31 日 (水)。

回答数は631件。40歳以上や安居未経験者などの回答を除いた有効回答数は506件。

あらかじめ母集団に対する必要なサンプル数は設定していないが、10 代から30 代の安居経験者は、調査時点で約2,200人~3,000人である。有効回答数506件はおよそ許容誤差4%、信頼度95%に相当するサンプル数であり精度が高いといえる。

- ※図表中の「n」は、設問に対する回答者の総数。
- ※図表中の構成比(%)は、小数点第2位以下を四捨五入している。
- ※複数選択と記載していない設問は、すべて単一選択の回答。

◆回答者の属性

(Q1) 性別

		(n=506)
	回答数	%
男性	503	99.4
女性	2	0.4
回答しない	1	0.2

(Q2) 年齢

		(n=506)
	回答数	%
20~24歳	7	1.4
25~29歳	87	17.2
30~34歳	202	39.9
35~39歳	210	41.5

(Q3) 配偶者の有無

		(n=506)
	回答数	%
いる	252	49.2
いない	249	49.8
回答しない	5	1.0

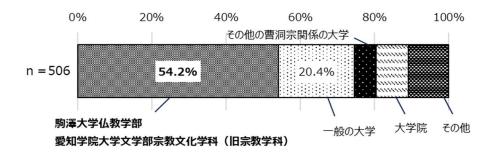
(Q4) 子どもの有無

		(n=506)
	回答数	%
いる	189	37.4
いない	313	61.9
回答しない	4	0.8

(Q5) 実家が曹洞宗寺院か

		(n=506)
	回答数	%
曹洞宗寺院である	462	91.3
曹洞宗寺院でない	44	8.7

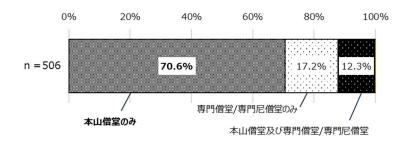
(Q6) 最終学歴



(n=506)

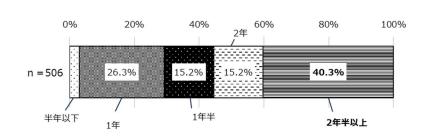
	回答数	%
一般の高等学校	32	6.3
曹洞宗関係の高等学校	10	2.0
一般の短期大学(専門学校・高専を含む)	10	2.0
曹洞宗関係の短期大学(専門学校を含む)	1	0.1
駒澤大学仏教学部·愛知学院大学文学部宗教文化学科(旧宗教学科)	274	54.2
一般の大学	103	20.4
その他の曹洞宗関係の大学	30	5.9
駒澤大学大学院仏教学研究科仏教学専攻·愛知学院大学大学院文学研究科宗教学仏教学専攻	18	3.6
一般の大学院	24	4.7
その他の曹洞宗関係の大学院	2	0.4
その他	2	0.4

(Q7) 安居した僧堂



	(n=506)
	回答数	%
本山僧堂のみ	357	70.6
専門僧堂/専門尼僧堂のみ	87	17.2
本山僧堂及び	62	12.3
専門僧堂/専門尼僧堂	02	12.3

(Q8) 安居した期間 ※複数の僧堂に安居している場合は通算期間



	(1	n=506)
	回答数	%
半年以下	15	3.0
1年	133	26.3
1年半	77	15.2
2年	77	15.2
2年半以上	204	40.3

(Q9) 教師資格

		(n=506)
	回答数	%
教師資格あり	445	87.9
教師資格なし	61	12.1

(Q10) 住職就任状況

		(n=506)
	回答数	%
就任している	166	32.8
就任していない	340	67.2

(Q11) 出身地

		(n=506)
	回答数	%
北海道	38	7.5
東北	73	14.4
関東	112	22.1
中部	156	30.8
近畿	39	7.7
中国	46	9.1
四国	6	1.2
九州沖縄	32	6.3
海外	4	0.8

(Q12) 居住地

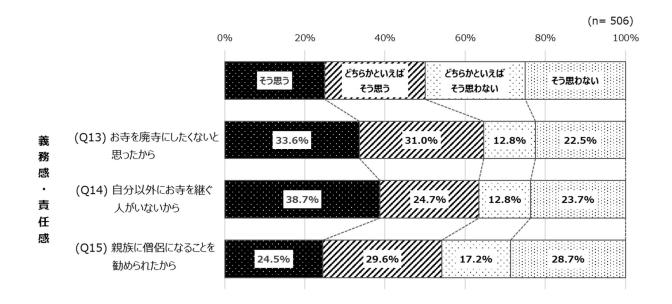
		(n=506)
	回答数	%
北海道	42	8.3
東北	70	13.8
関東	129	25.5
中部	157	31.0
近畿	36	7.1
中国	43	8.5
四国	6	1.2
九州沖縄	23	4.5

◆「僧侶」という職業を選択した理由について

今回の調査では、若手僧侶が「僧侶」という職業を選択した理由を把握するため(Q13)~(Q33)の21項目を挙げ、4段階評価でたずねた。さらに、全21項目を「義務感、責任感(3項目)」「やりがい、成長(6項目)」「興味、魅力(3項目)」「働く環境、条件面(8項目)」「その他(1項目)」に分類し、以下のとおり分析した。

(1)「お寺を継ぐ人がいないから」「廃寺にしたくない」と考えられている傾向が強い

まず、全 21 項目のうち「義務感、責任感」に分類した項目について述べていく。「お寺を廃寺にしたくないと思ったから」「自分以外にお寺を継ぐ人がいないから」「親族に僧侶になることを勧められたから」の 3 項目に対し、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答したのは 5 割~6 割と半数以上を占めていた。さらに、「そう思う」というより明確な意見は、「お寺を廃寺にしたくないと思ったから(33.6%)」「自分以外にお寺を継ぐ人がいないから(38.7%)」であり、全 21 項目の中で上位 2 つに位置しており、最も明確な理由として考えられているものと言える。

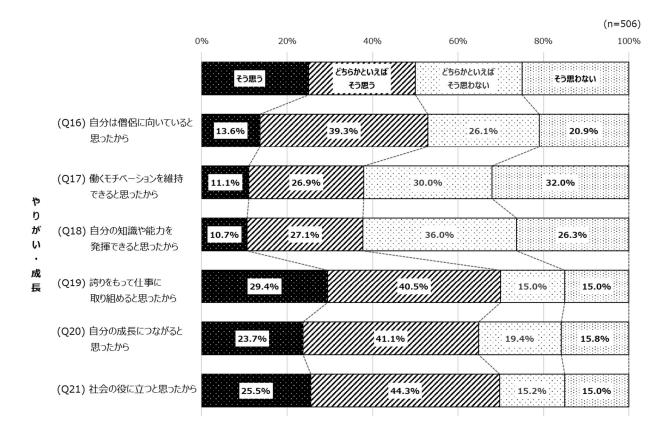


(2)「社会貢献や自己成長」を理由に僧侶を選択した人が多い傾向

次に、全21項目のうち「やりがい、成長」に分類した項目について述べていく。「やりがい、成長」を表す項目の中で、「誇りをもって仕事に取り組めると思ったから」「自分の成長につながると思ったから」「社会の役に立つと思ったから」は「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が6割~7割と高く、全21項目の中で上位3つに位置していた。

一方で、「自分は僧侶に向いていると思ったから」「働くモチベーションを維持できると思ったから」「自分の知識や能力を発揮できると思ったから」に対する肯定的意見は、4割~5割程度と上記3つの項目に比べ少なかった。

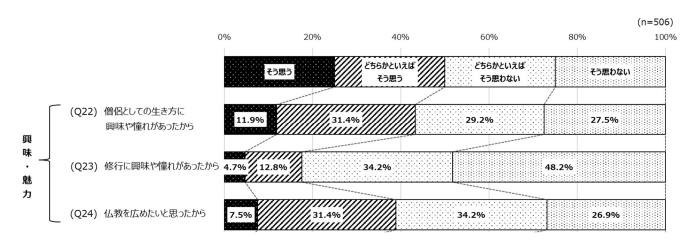
このように、僧侶という職業を選択する上で、「社会貢献や自己成長」を動機にしている人は多いが、 「自身の能力発揮や僧侶としての適性」を期待している人は少ないことが分かった。

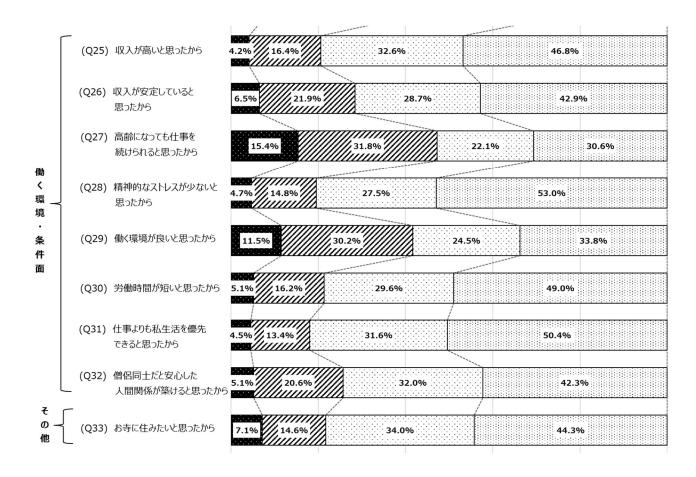


(3)「興味、魅力」「働く環境、条件面」などの項目は否定的な意見が多い

その他の項目については、否定的な意見のほうが多かった。「興味、魅力」に分類した項目では、「修行に興味や憧れがあったから」に対して回答者の約8割が否定的な意見を持ち、さらに「僧侶としての生き方に興味や憧れがあったから」「仏教を広めたいと思ったから」についても、否定的な意見が約6割と多くを占めていた。

また、「働く環境、条件面」に分類した 8 項目も「高齢になっても仕事を続けられると思ったから」「働く環境が良いと思ったから」の 2 項目以外は、否定的な意見が約7割~8 割とかなりの部分を占めていた。特に、「そう思わない」というより明確な意見は、「精神的なストレスが少ないと思ったから(53.0%)」「仕事よりも私生活を優先できると思ったから(50.4%)」「労働時間が短いと思ったから(49.0%)」が多く、全21 項目の中で否定的な意見の上位3つであった。回答者の多くは精神的なストレスが多い、労働時間が長い、私生活を優先できないと思っているといえる。





(4) 僧侶になる理由には「自己犠牲的な義務感」が大きい

肯定的な意見が多かったのは、廃寺にしたくない、お寺を継ぐ人がいないといった義務感や責任感と、 誇りをもって仕事に取り組める、社会の役に立つ、成長につながるといった社会貢献や自己成長であっ た。一方で、修行や僧侶に対する興味や憧れ、仏教を広めたい思いなど、宗教者本来の動機に近い項目は 否定的な意見が多く、特筆すべき結果と言える。

さらに、自身の能力発揮や僧侶としての適性には否定的で、収入が高い、精神的なストレスが少ないといった働く環境、条件面に対しても否定的であった。このことから、若い世代の人たちが僧侶を選択する理由として、「自己犠牲的な義務感」が大きいと言えるのではないか。

また、僧侶になることを選択しない人への意識調査は容易ではないが、この調査結果を読み変えることで推測できる部分がある。つまり、僧侶になる理由として肯定的な意見が多かったものは肯定度が低く、否定的な意見が多かったものは僧侶を選択しない理由になっているのではないか。

例えば、自分以外にお寺を継ぐ人がいないといった義務感が発生しない人やそう感じない人にとっては、僧侶になろうと考える動機や理由がないのかもしれない。あるいは、僧侶という職業を選択されるようにするには、若い世代の人たちが、僧侶への興味や憧れ、仏教を広めたいという思いを持てるようにすることや、働く環境や条件に対する認識を改善していくことに手がかりがあるのではないか。

◆安居時期と就職経験について

次に、安居時期や就職経験に関する調査結果について確認していく。安居には「卒業後すぐ」に行ったと回答した人は74.5%と最も多く、「就職を経験した後」「在学中」に安居に行ったと回答した人はいずれも少数であった。また、安居後に僧侶以外の就職経験があるかなど複数の設問の回答を組み合わせた結果、僧侶以外の就職経験がない人は回答者の約6割、安居の前や後に僧侶以外の就職経験があるのは3割半となった。さらに、就職経験があると回答した183人のうち、現在も仕事に就いている人、つまり兼職していると回答した人は91人で、全体の17.8%にあたる。

(Q34) あなたはいつ安居しましたか

	(n	=506)
	回答数	%
在学中	34	6.7
卒業後すぐ	377	74.5
就職(僧侶以外の仕事)を経験した後	69	13.6
その他	26	5.1

(Q35) 安居後、一度でも僧侶以外の仕事に就職しましたか

(Q36) 現在も僧侶以外の仕事に就いていますか

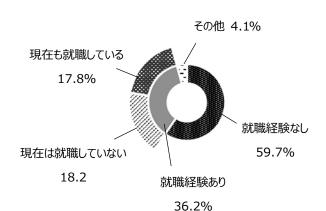
※(Q35)で「はい」と回答した人のみ

		(n=506)
	回答数	%
はい	142	28.1
いいえ	364	71.9

		(n=142)
	回答数	%
はい	91	64.1
いいえ	51	35.9

(Q34) (Q35) (Q36) への回答から就職経験の有無を集計した結果

		(n=506)
	回答数	%
就職経験なし	302	59.7
就職経験あり	183	36.2
(現在も就職している)	(91)	(17.8)
(現在は就職していない)	(92)	(18.2)
その他	21	4.1



(Q37) 僧侶以外の仕事に就いた理由

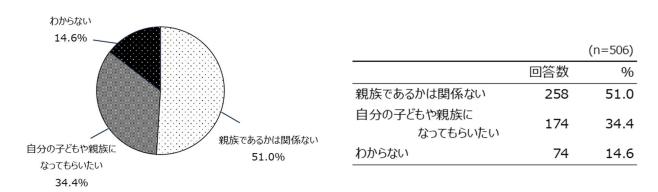
※ (Q35) で「はい」と回答した人のみ

		(n=142)
	回答数	%
生活のための収入を得るため	69	48.6
収入には関係なく僧侶以外の仕事を経験したかったから	43	30.3
どちらでもない	30	21.1

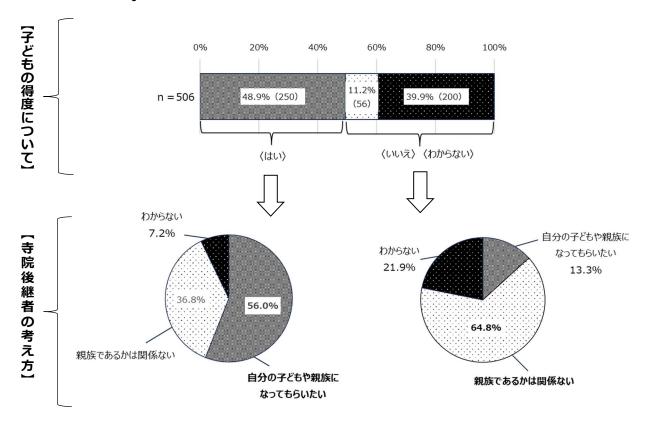
◆寺院後継者について

次に、寺院後継者に関する調査結果について確認していく。後継者は「親族であるかは関係ない」と回答したのは51.0%を占め、「自分の子どもや親族になってもらいたい」と回答したのは34.4%であった。また、子どもに得度させたいかと考えているかについて、「はい」は約5割、「いいえ」は約4割であったが、(Q38)(Q39)を組み合わせたところ、子どもの得度に肯定的な人は後継者に血縁関係を望む割合が高く、子どもの得度に否定的またはわからないと回答した人は、後継者が親族であるかは関係ないと考えている割合が高かった。後継者と血縁関係についての意識はおおまかに二分されている。

(Q38) 寺院後継者について、あなたの考えに最もあてはまるものを選んでください



- (O38) 寺院後継者について、あなたの考えに最もあてはまるものを選んでください
- (Q39) 子どもがいる(いたら)得度させたいですか

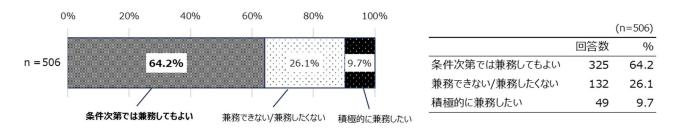


◆兼務について

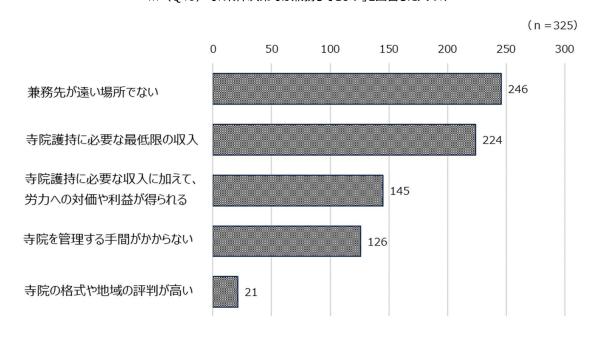
次に、寺院の兼務に関する調査結果について確認していく。「条件次第では兼務してもよい」と回答した人は 64.2%と最も多く、次いで「兼務できない/兼務したくない」は 26.1%であった。一方、「積極的に兼務したい」と回答した人は 9.7%とわずかであった。

さらに、兼務してもよいと思える条件に5項目を挙げ、複数選択でたずねた。その結果、約6割~7割の人は「兼務先が遠い場所でない」「寺院護持に必要な最低限の収入」を、約4割は「寺院護持に必要な収入に加えて、労力への対価や利益が得られる」「寺院を管理する手間がかからない」を条件に該当すると回答している。このように、兼務する寺院が増えることや兼務寺院を後継することに対して、無条件ではないと考える人が多いと言える。

(Q40) 複数の寺院の住職を兼務することについて、あなたの考えにあてはまるものを選んでください



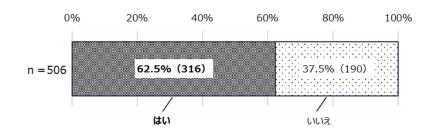
(Q41) 兼務しても良いと考えられる条件として、あなたの考えにあてはまるものをすべて選んでください (複数選択) ※(Q40)で「条件次第では兼務してもよい」と回答した人のみ



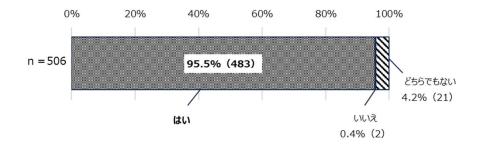
◆寺院の財務状況の把握について

次に、寺院の財務状況の把握に関する調査結果について確認していく。所属寺院の財務状況を把握しているかの設問に「はい」は 62.5%、「いいえ」は 37.5%であった。住職であれば寺院の財務状況を把握すべきかの設問に、ほぼすべての人が「はい」と回答し、住職になる前に把握すべきかの設問に「はい」は 75.3%であった。財務状況を把握すべきという意識は強いと言えるが、現時点で把握している人はそれよりも少なかった。

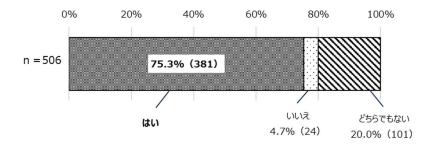
(Q42) あなたが所属している寺院の財務状況を把握していますか



(O43) 住職であれば寺院の財務状況を把握すべきだと思いますか



(Q44) 住職になる前にあらかじめ寺院の財務状況を把握すべきだと思いますか

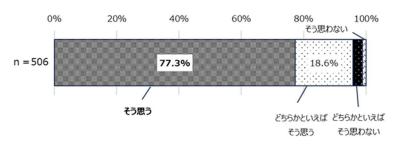


◆寺院や僧侶の変化について

次に、変化の必要性に関する調査結果について確認していく。寺院や僧侶は時代に合わせて変化が求められていると思うかの設問に、「そう思う」は77.3%、「どちらかといえば、そう思う」も含めると95.9%であった。

さらに、変化が必要だと思う項目を8項目挙げ、複数選択でたずねた。その結果、「地域、社会に対する寺院の役割」が最も多かった。「地域、社会に対する僧侶の役割」「檀家制度」「供養の在り方」「お布施」についても半数以上が、変化が必要としている。

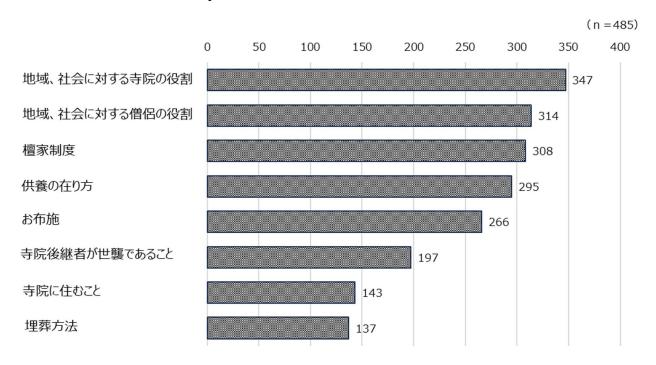
(O45) 寺院や僧侶は時代に合わせて「変化」が求められていると思いますか



		(n=506)
	回答数	%
そう思う	391	77.3
どちらかといえば、そう思う	94	18.6
どちらかといえば、そう思わない	15	3.0
そう思わない	6	1.2

(Q46) 変化が必要だと思うものをすべて選んでください (複数選択)

※ (Q45) で「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した人のみ

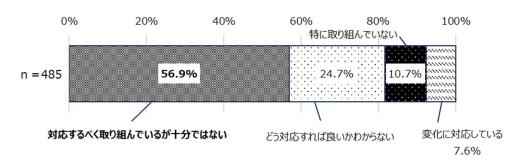


なお、変化が必要だと思うものについて自由記述を設け、分類すると次のようなものが挙げられた。

分類	自由記述内容における主要なキーワードおよび要点	件数
僧侶自身	僧侶の在り方、考え方、意識、資質、素養、人格、妻帯	9 件
宗内の慣習、慣例	晋山結制など宗門行持のやり方、縦社会、年功序列、本末関係、	9 件
ボド107 良日、良か1	大本山と一般寺院の関係、さまざまな組織形態、古い考え方	J IT
宗費の使途	宗費の使い道、儀式や研修会の見直し、宗務庁や管区行事の在	5 件
示員の 関処	り方	J 1 T
宗費	宗費の決め方、減免	4 件
宗制、制度	宗制全般、資格制度	3 件
安居、修行	修行の意義、安居期間	3 件
包括法人	曹洞宗宗務庁、包括法人の意義、在り方	2 件
戒名	ジェンダーと戒名	2 件
デジタル化	デジタル化できる部分の見直し、脱アナログ	2 件
こ の曲	宗教法人の在り方、寺院数の削減、地域による宗門事業(坐禅	15 <i>I</i> I+
その他	会、法話会等)の温度差	15 件

また、変化が必要だと回答した人に対して、変化への対応状況をたずねたところ、「対応するべく取り組んでいるが十分ではない」は 56.9%と過半数を占め、「どう対応すれば良いかわからない」も 24.7%あった。一方で、「変化に対応している」は 7.6%とわずかであった。寺院や僧侶は時代に合わせて変化が必要であると感じつつも、積極的に変化に向き合えていない状況であるといえる。

(Q47) あなたは求められている変化に対応できていると思いますか ※ (Q45) に「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した人のみ



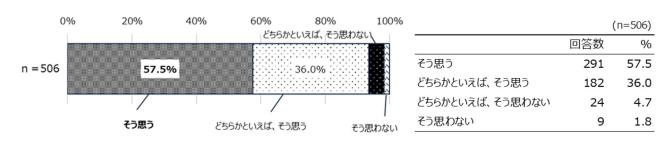
	(n=485)	
	回答数	%
対応するべく取り組んでいるが十分ではない	276	56.9
どう対応すれば良いかわからない	120	24.7
特に取り組んでいない	52	10.7
変化に対応している	37	7.6

◆専門的な知識や技能について

次に、僧侶の専門的な知識や技能に関する調査結果について確認していく。僧侶には専門的な知識や技能が求められていると思うかの設問に、「そう思う」は57.5%、「どちらかといえば、そう思う」も含めると93.5%であった。

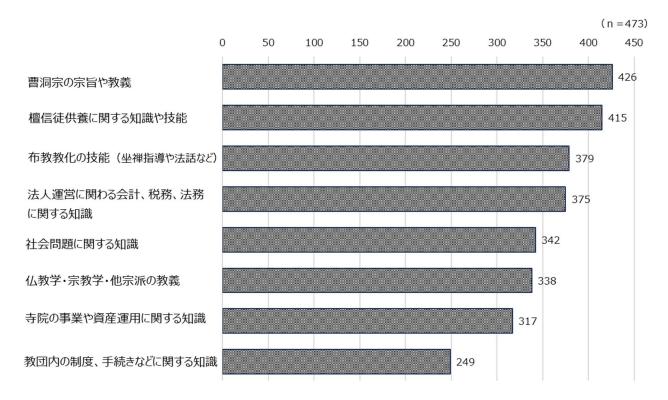
さらに、必要だと思う知識や技能に8項目を挙げ、複数選択でたずねた。その結果、「曹洞宗の宗旨や教義」「檀信徒供養に関する知識や技能」「布教教化の技能」といった宗教活動に直結するものが上位となったが、「法人運営に関わる会計、税務、法務に関する知識」や「社会問題に関する知識」なども多く、ほぼすべての項目に対して半数以上の回答者が必要だと回答している。

(Q48) あなたは僧侶として専門的な知識や技能が求められていると思いますか



(Q49) あなたにとって必要だと思う知識や技能をすべて選んでください (複数選択)

※ (Q48) で「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した人



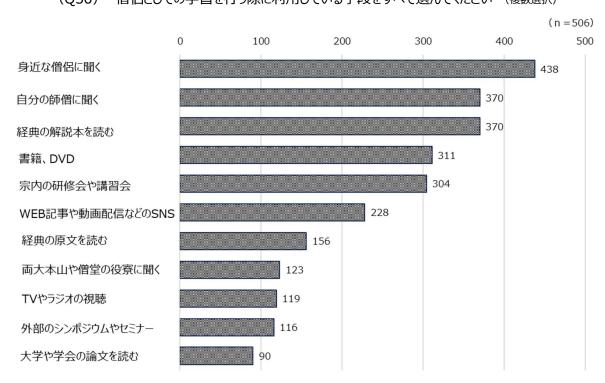
なお、必要だと思う知識や技能について自由記述を設け、分類すると次のようなものが挙げられた。

分類	自由記述内容における主要なキーワードおよび要点	件数
1月14年 コミュー 4- シュン・コ	コミュニケーション能力、人間性、行儀やマナー、社会的リテラシー、僧侶である前に人としての人間教育、対話のスキル、仏の教	11 <i>II</i> +
人間性、コミュニケーションカ	一、信信である前に入としての人間教育、対話のスキル、仏の教えにかなう態度や在り方	11 件
地域の風習や伝統	寺院の地域性、歴史、伝統、風習、文化	4 件
経営やマネジメント	経営、マネジメント、業務管理の知識、コンプライアンス教育、マ ーケティング	3 件
墓地、埋葬に関する知識	墓地、埋葬、改葬の管理や法律に関する知識	2 件
語学	英語、語学	2 件
人権	人権問題、人権に関する知識	2 件
その他	一般教養、社会福祉に関する知識・資格、成年後見人制度、伽 藍整備、IT など	14 件

◆学習手段について

次に、僧侶としての学習に利用している手段を複数選択でたずねた。「身近な僧侶に聞く」「自分の師僧に聞く」「経典の解説本を読む」「書籍、DVD」「宗内の研修会や講習会」が回答者の過半数を超え上位であった。これらと比較すると「WEB 記事や動画配信などの SNS」はやや少なく、それ以外の手段はさらに少ない。

(Q50) 僧侶としての学習を行う際に利用している手段をすべて選んでください (複数選択)



また、僧侶としての学習を行う際に利用している手段について自由記述を設け、分類すると次のようなものが挙げられた。

分類	自由記述内容における主要なキーワードおよび要点	件数
人と話す	在家者、仏教に興味のない人、様々な業種の人と話す、価値観 を知る、人との触れ合い	6 件
経験、実践	地域での活動、行の実践、体験	4 件
その他	参学の師や他宗の老師に教わるなど	2 件

この他に、あれば利用したい学習手段について自由記述を設け、分類すると次のようなものが挙げられた。

分類	自由記述内容における主要なキーワードおよび要点	件数
リモート講義	オンライン配信によるリモートでの講義、講習、研修	32 件
アプリ、テクノロジ	アプリケーション、スマートフォン向け、VR、AI チャット	7 件
勉強会	少人数の勉強会、独参会、輪読会、意見交換	6 件
一般人・専門家との機会	在家の方、一般社会、様々な業種の方、専門家と触れる機会	4 件
音声教材	オーディオブック	2 件
相談窓口	気軽に相談できる窓口、LINE 等相談窓口	2 件
7.D.W	摂心、他宗教他宗派(新宗教含む)との交流、シャンティスタディ	0.14
その他	ツアー、外国寺院への拝登・講習・修行体験、電子書籍など	8件

〈本調査に関するお問い合わせ〉 曹洞宗宗務庁 人事部運営企画室 TEL: 03-3454-5411

本レポート及び運営企画室の各種レポートは「曹洞禅ネット」にも掲載しています。